

― 私たちは、平和を祈る―

ブッシュさん、イラク先制攻撃をやめて下さい！
― 小泉首相は、イラク攻撃に絶対に手を貸すな！ ―

質問「ブッシュ大統領は、なぜイラクを攻撃したがつているのですか？」
回答「そうだね。一言で言うのはむづかしいが、まず第一に、『イラクは危険な

悪者で、アメリカは絶対に正義である』と、自分で勝手に思いこんでいることだ。だから『やつつける』ということになる。イラクの一般国民が多数犠牲になることなど、眼中にない非人道的な考えがブッシュの根底にある。

第二は、ブッシュ政権の中にネ、『軍需産業』と『石油資本』の代弁者が多数要職に就いていることだ。イラク攻撃は、軍需産業（死の商人）や、石油利権にとつても、大儲けのチャンスだから、やめようとしなないのだ。

第三は、アメリカ国益中心の単独主義のエゴイズムの態度だ。例えば、国連で日本の提出した核軍縮決議にも反対、包括的核実験禁止条約に一国だけ反対、生物化学兵器禁止条約の合意をもつぶしたこと、A B M大陸間弾道弾制限条約脱退、人権差別会議から離脱、地球温暖化防止京都議定書の批准拒否、国際刑事裁判所の設置にも反対などだ。

国際協調どころか、世界の平和や安全・福祉など眼中になく、アメリカの国益だけを考える自己中心主義だね。自分は、核兵器も、ミサイルも、生物化学兵器も数え切れないほど保有していながらだ。

質問「なるほどそうですか。それにしても世界の国々が国連でみんな揃って攻撃反対をすればいいのに。国連は、そのためにあるのでしよう？」

回答「それはその通り。しかしネ、米国の超軍事力と金の力が恐ろしいからさ。しかし、仏・ロ・独などが正面から反対しているのは、国民の戦争反対の声が政府を動かしているのだ。貧しい国々は、『援助しないぞ！』と言われれば、内心は反対でも、なかなか口に出せないのだよ。

しかしトルコは、政府がものすごい援助と引き替えに米軍基地受け入れを国会に提案しても、国会は国民の反戦の世論に耳を傾けてそれを拒否したのだよ。これは立派だったし、本当の民主主義の姿を見たね。

今、世界中で反戦デモが、大変な勢いで拡大しており、三月一五日（土）には、米国で大規模な反戦行動が予定されているが、アメリカが思い留まってくれるといいがね。」

質問「日本は戦争を放棄した平和憲法を持つ世界唯一の国でありながら、なぜ小泉首相や川口外務大臣、与党の政治家たちは、アメリカに『戦争をやめなさい』と言わないのですか？」

回答「全くだね。日本国民の八〇％がイラク攻撃に反対しているのに政府は反対しない。政府は国民をバカにしている。小泉首相は、『ブッシュの忠犬』などと、世界の心ある人々から笑われているのに、先日、国連でアメリカの主張そのままを発言したので、失笑をかったとか。」

この際、しっかりと平和を打ち出さないとアジアの国々はもちろん、世界の国々からも信頼されなくなるだろうな。残念なことだ。しかし国民反戦行動も盛り上がって来つつあるが、国民全体を見ると、まだ他人事のように考えているふしがあるな。反戦集会やデモが行われても、マスコミも熱心には

報道しない。どうしてだろうね。平和憲法が泣いている！」

― 私たちは心から訴えます。

- ・ 米国よ、ブッシュ大統領よ、イラク攻撃をやめて下さい！
- ・ 小泉内閣よ、国会よ、平和憲法を守り、イラク攻撃を支持しないで下さい！

二〇〇三年三月九日（日）第四三三回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市紺屋町三〇一ノ十五